

令和3年度第1回広島県公立大学法人評価委員会議事趣旨

- 1 開催日時：令和3年8月2日（月）14:00～15:30
- 2 開催場所：オンライン開催
- 3 出席委員：曾余田委員長・浅田委員・木原委員・中矢委員
- 4 議題：令和2事業年度業務実績報告について

（評価委員：○，県立広島大学：●）

- No.39「競争的資金の獲得支援」及びNo.80「外部資金の獲得」について、それぞれどのような考え方で自己評価を行ったのか。
- 競争的資金の獲得支援については、共同研究への参画教員数が少ないことや、学部資金獲得に向けた組織的な支援体制が不十分であることから、評価を「2」とした。一方で、外部資金の獲得については、目標を上回る成果を上げていることから、評価を「4」としている。
- TOEIC 点数による語学力の向上だけではなく、学生のグローバル・コンピテンシーの伸びを測る仕組みはあるのか。
- 国際化に特化していないが、各種ルーブリックや外部評価テストにより学修成果の可視化に取り組んでいる。また、各学部・学科が作成するルーブリックの中で、国際化に関するコンピテンシーの伸びを測ることができていると考えている。
- No.73「コンプライアンスの確保」について、厳しい自己評価とした考え方は。
- 外部監査の指摘事項は、本来あってはならないものであり、二度と発生させないという決意を込めて厳しく自己評価を行った。
- 県立広島大学の令和2年度の取組の中で、一番の成果は何か。
- アクティブ・ラーニングの推進に関する取組である。文部科学省の大学教育再生加速プログラム（AP事業）においても、S評価（4段階中の最高評価）を得るなど、取組が着実に進んでいる。
- 令和3年4月に開学した叡啓大学の「教育哲学」とはどのようなものか。
- 叡啓大学では、先行きが不透明な社会情勢の中で、解の無い課題に果敢にチャレンジし、リーダーシップを発揮しながら、たくましく生き抜いていける学生を育てることを目指している。

（法人関係者退席）

（評価委員：○，事務局：●）

- 令和2年度は、新型コロナウイルスの影響を踏まえて評価する必要があるのではないかと。
- 評価に当たっては、新型コロナウイルスの影響も考慮しつつ、年度計画で定める目標が達成できているかの視点により行うものとする。
- 競争的資金の獲得支援については、法人評価は「2」であるが、数値目標を達成していることを踏まえて評価する必要があるのではないかと。ある程度、客観的に評価すべきではないかと。
- 数値目標は達成できているが、支援体制など不十分な点もあるので評価を下げる、あるいは、評価は下げないが、文書の中で不十分な点を指摘するといったことを検討する。
- コンプライアンス体制の確保については、法人の考え方は理解できたが、評価委員会としてどのように評価するか検討が必要である。
- 競争的資金の獲得支援とコンプライアンス体制の確保の2項目については、改めて法人へ考え方の説明を求める。
- 同じ法人内であっても、叡啓大学と県立広島大学は教育内容などが異なることから、叡啓大学が学年完成する令和6年度以降は、大学ごとに評価を行うことも検討すべきではないかと。
- 今後の検討課題としたい。

⇒ 委員了